

(公財)青山音楽財団助成公演

トーマス・ラインス/泉本信子/ヴォルフガング・フリーベ
ライアートリオ コンサート 2020

Leier Trio Konzert 2020

Thomas Leins Nobuko Izumoto Wolfgang Friebe

2020年

4月15日(水)

18:30開演(18:00開場)

バロックザール
Barocksaal
青山音楽記念館



◆入場料

前売 3000円(当日 3500円) 全席自由

*未就学児の入場はご遠慮ください

◆チケット販売

青山音楽記念館 075-393-0011

チケットぴあ Tel:0570-02-9999 (Pコード 171-582)

※セブンイレブン等でも購入可

ライアー京都・MATSUZAKI

leier.kyoto@gmail.com Fax:06-6841-9302

◆お問合せ 青山音楽記念館 075-393-0011

〒615-8382 京都市西京区松尾大利町9-1

PROGRAM

J.S.バッハ:ゴールドベルク変奏曲 から

P.M.リーム: Moment Musical

F.モンボウ: ひそやかな音楽

W.フリーベ: 2台のライアーのための曲 / 探す / 出会う

B.バルトーク: 「ルーマニア舞曲集」「子供のために」「マイクロコスモス」から

藤井喬梓: ライアーのための作品

「日本の4つの子どもの歌」「4つの俳句のための音楽」

ほか



Profile

トーマス・ラインス

Thomas Leins

(コンサートライアー)

ドイツ在住。1960年生まれ。デトモルトとシュットガルトの大学でクラリネットを学ぶ。マンハイムのオーケストラでクラリネット奏者として活動後、ライアーをはじめ。現在ゲッピンゲンのヴァルドルフ学校でライアーの教師として、またドンツドルフ音楽学校でクラリネットを教える。W.フリーベとライアーデュオでドイツを中心にコンサートを行っている。

泉本信子

Nobuko Izumoto

(ソロソプラノライアー)

東京在住。大学及び大学院でピアノと音楽教育学を専攻。1988年よりスザンネ・ハインツ、ヴォルフガング・フリーベらにライアーを師事。2007年からはW.フリーベとデュオを組む。日本では「ライアートリオA.K.I.」で毎年コンサートを行う。またライアー響会の仕事にも携わる。訳書：「ライアー〜新しい弦楽器の誕生と可能性」(マリア・ホルンダー/ペーター・レツベ著 猿谷利加・水野珠実共訳 ライアー響会)「シュタイナー学校の音楽の授業」(松本やちよ共訳 音楽之友社)他

ライアーとは

ライアーは5000年前からあった楽器です。特に古代ギリシャでは太陽神アポロンの楽器として大切にされていました。そして現在のライアーは、1926年に音楽家エドムント・プラハトと造形芸術家ローター・ゲルトナーによって“新しいライアー”として作られたものです。療法的音楽をする楽器として、またシュタイナー学校、幼稚園の教育の場で使われてきましたが、ライアーのための作品が多く作曲されるようになる中で、演奏楽器としてもいろいろな機会に使われるようになっていきます。

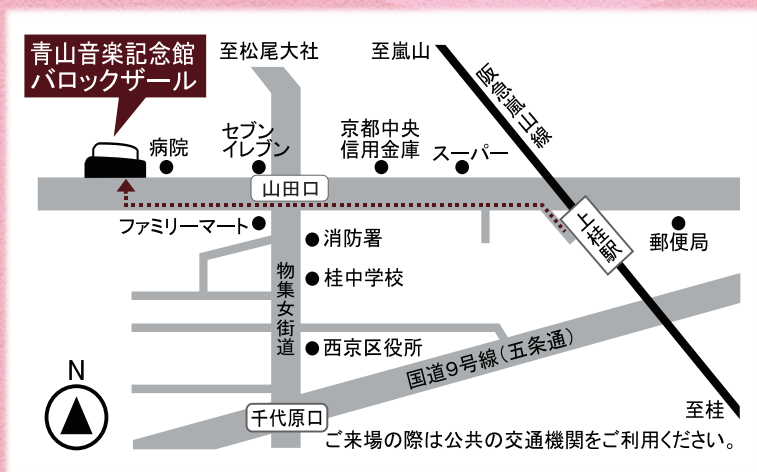
青山音楽記念館バロックザール

〒615-8382 京都市西京区松尾大利町9-1

TEL : 075-393-0011

<https://barocksaal.com/>

阪急嵐山線 上桂駅下車 西へ300M (徒歩約5分)



ヴォルフガング・フリーベ

Wolfgang Friebe

(アルトライアー)

ドイツ在住。1954年ドイツ・ミンデン生まれ。治療教育学を学ぶ中でライアーに出会い、“Freie Musik Schule (自由音楽学校)”で芸術-教育-治療としての音楽及びライアーを学ぶ。1983年よりスイス・バーゼルの障害者学校の音楽教師を勤めたのち、2014年に北ドイツ・エルベ川沿いにあるナーレンドルフに移る。演奏活動とともに、ライアー作品の作曲も行う。7回目の来日。ライアートリオとしての活動は2016年頃から始め、ドイツ・チェコ・オランダなどでコンサートを行う。ライアー楽譜集：「Regenbogen(レーゲンボーゲン)」(ライアー響会)等。